ドアノブ・レバーハンドルについての注意点及び取付方法

目次

1. ご注文時の注意点

2. ドアノブ・レバーハンドルの取付けの際の注意点

3. ドアノブチューブラ錠取付説明書

4. レバーハンドルチューブラ錠取付説明書

■ご注文時の注意点

①ドアの厚みが 31 ミリ以下の場合や 50 ミリ以上の場合は、付属する芯棒が対応していない為、取付けできません。
②ドアの厚みに適さない長い芯棒をご利用になられますと、ドアノブ・レバーハンドルがぐらついたり、外れたりする恐れがあります。できるだけ、ご注文時にドアの厚さをお知らせください。

■ドアノブ・レバーハンドルの取付けの際の注意点

フランスのリモージュ焼の陶器を使用したカオリンヌのドアノブ・レバーハンドルは、重みがあります。
一方、ショップ内で販売しておりますラッチ（チューブラ錠）は日本製ですが、このラッチでは陶器の重さに対するラッチ内のバネの強さが不足しているため、使用時に正常な位置に戻らない場合がございます。

解消方法として

①ドアの厚みが34ミリ以上の場合は、補助部品として折り返し用バネ（取付説明書の⑤です。）を同封しておりますので、このバネを取付けて頂くようお願いします。なお、玄関のように頻繁に使用する箇所ではケース錠（下記③）をご利用いただくことをお勧めします。
②ドアの厚みが33ミリ以下の場合は、折り返し用バネがドアの内側に納まりませんので取付けられません。あらかじめご了承ください。対応方法としては、ケース錠（下記③）をご利用いただく方法があります。
③ケース錠を使用しての設置
ラッチではなく、よりバネの力が強固であるケース錠をご使用頂く方法があります。特に玄関のように頻繁に使用する箇所では、ラッチではなくケース錠をご利用いただくことをお勧めします。ただし、ケース錠は一方方向回転でしか利用できませんので、ドアノブ用にご利用いただく際には、その点ご了承下さい。※ドアノブ用のラッチは左右に回転します。

その他の注意点

ドアノブ・レバーハンドルを取付ける際に、ドアノブ・レバーハンドルと台座の間に取付けるパッキン（取付説明書の⑨です。）を必ず取付けて下さい。
芯棒とドアノブを安定させる為と金属の摩耗を防ぐ役割をするために必要となります。

ドアノブ チューブラ錠 取付説明書（7㎜芯棒・バックセット 55 ㎜ ,60 ㎜・左右回転）

⚠
- スベリ止め付き手袋を御使用下さい。金具で手を切ることもあります。
- ドアノブ等の突起物を足場にしないで下さい。滑って、ケガをすることがあります。
  また、製品性能が低下することもあります。
- ネジは、この取付説明書に従って正確に締め付けて下さい。締付不良の場合、故障の原因になります。
- 特にドアノブの止めネジは、内外とも強く締め付けて下さい。
  締め付けが緩いと、使用時にはずれて、ケガをすることがあります。
- 全ての部品を取り付け後、正常に作動しているか確認して下さい。

1．錠本体取付け

錠本体の刻印（上）にして、扉を差込んで下さい。ラッチの向きを扉の勝手に合わせ、フロントと錠本体を錠取付ネジ（下図①）で取付けて下さい。

2．台座取付け

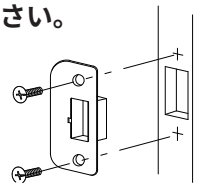
錠本体に芯棒 (下図②) を差し込み、一方の台座 (下図③) をドア本体に台座取付ネジ (下図④) で仮止めして下さい。そして、もう一方のドア本体にドアノブ返し用バネ (下図⑤) をはめ込み、台座 (台座⑥) を台座取付ネジ (下図⑦) で取付けて下さい。 ※台座の形状により取付方法が若干異なります。

3．ドアノブ取付け

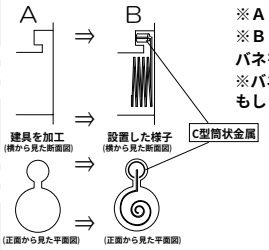
芯棒 (下図②) に両方のドアノブ (下図⑧) をパッキン (下図⑨) と差し込みハンドル止めネジ (下図⑩) で取付けて下さい。最後に、台座取付ネジ (下図④) を強く締付けて下さい。
※パッキン (下図⑨) は、ドアノブと台座の摩耗を防ぐためです。
注）ドアノブ止めネジは必ず両方のネジを強く締め付けて下さい。

4．調整ストライク取付け

錠取付後、ストライクを右図のように取付けて下さい。



⑤ドアノブ返し用バネについて



※A 建具を図のように加工します。
※B（C型筒状金属）を小さい穴にはめてから、バネを穴に埋めます。
※バネの回転方向により判断して建具の内側もしくは外側に取付けて下さい。

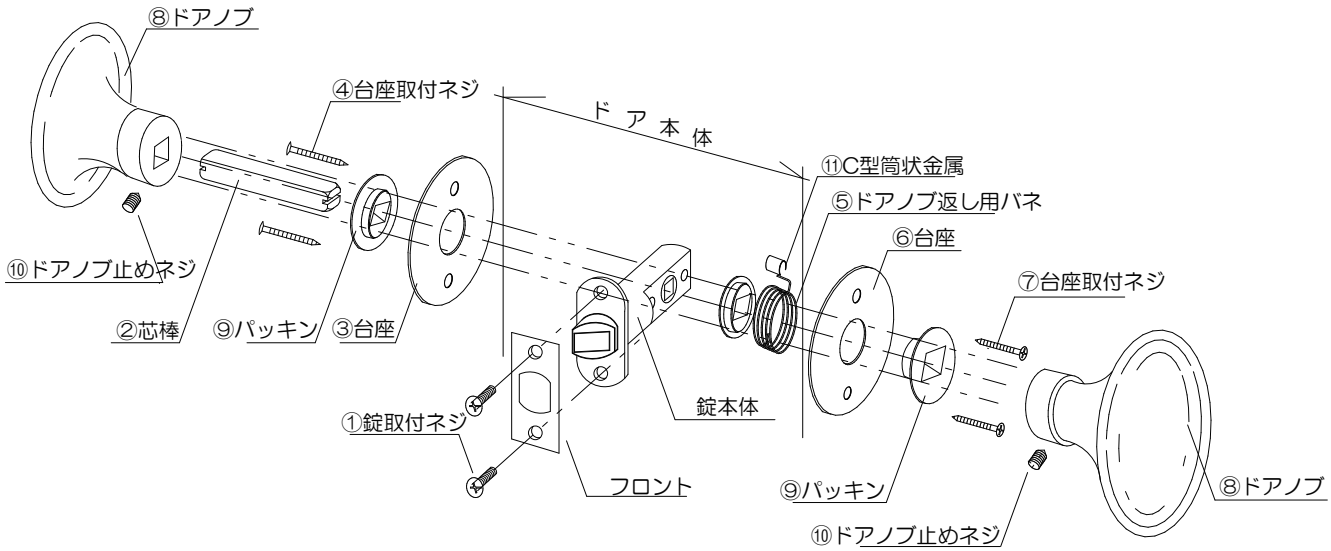
バネを取付けた様子

⑤ドアノブ返し用バネはドア厚34ミリ以上の補助部品です。

<1> チューブラ錠本体にもバネの機能がありますので、ドアノブの取扱には返し用バネを取付けなくても、特に支障ありません。

<2> ドア厚が厚いと芯棒も長くなりチューブラ錠のバネに負担がかかるため、補助部品として返し用バネを取付けることをお勧めしております。

<3> ドア厚33ミリ以下のドアでは、返し用バネがドアの内側に納まりませんので、取付けられません。



レバーハンドル チューブラ錠 取付説明書　（8㎜芯棒・バックセット 50 ㎜・一方回転）

⚠
- スベリ止め付き手袋を御使用下さい。金具で手を切ることもあります。
- レバーハンドル等の突起物を足場にしないで下さい。滑って、ケガをすることがあります。
  また、製品性能が低下することもあります。
- ネジは、この取付説明書に従って正確に締め付けて下さい。締付不良の場合、故障の原因になります。
- 特にレバーハンドルの止めネジは、内外とも強く締め付けて下さい。
  締め付けが緩いと、使用時にはずれて、ケガをすることがあります。
- 全ての部品を取り付け後、正常に作動しているか確認して下さい。

1．錠本体取付け

錠本体の刻印（上）にして、扉を差込んで下さい。ラッチの向きを扉の勝手に合わせ、フロントと錠本体を錠取付ネジ（下図①）で取付けて下さい。

2．台座取付け

錠本体に芯棒 (下図②) を差し込み、一方の台座 (下図③) をドア本体に台座取付ネジ (下図④) で仮止めして下さい。そして、もう一方のドア本体にハンドル返し用バネ (下図⑤) をはめ込み、台座 (台座⑥) を台座取付ネジ (下図⑦) で取付けて下さい。　※台座の形状により取付方法が若干異なります。

3．レバーハンドル取付け

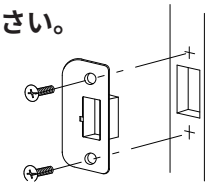
芯棒 (下図②) に両方のレバーハンドル (下図⑧) をパッキン (下図⑨) と差し込みハンドル止めネジ (下図⑩) で取付けて下さい。最後に、台座取付ネジ (下図④) を強く締付けて下さい。

※パッキン (下図⑨) は、レバーハンドルと台座の摩耗を防ぐためです。

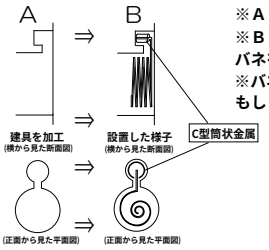
注）ハンドル止めネジは必ず両方のネジを強く締め付けて下さい。

4．調整ストライク取付け

錠取付後、ストライクを右図のように取付けて下さい。



⑤ハンドル返し用バネについて



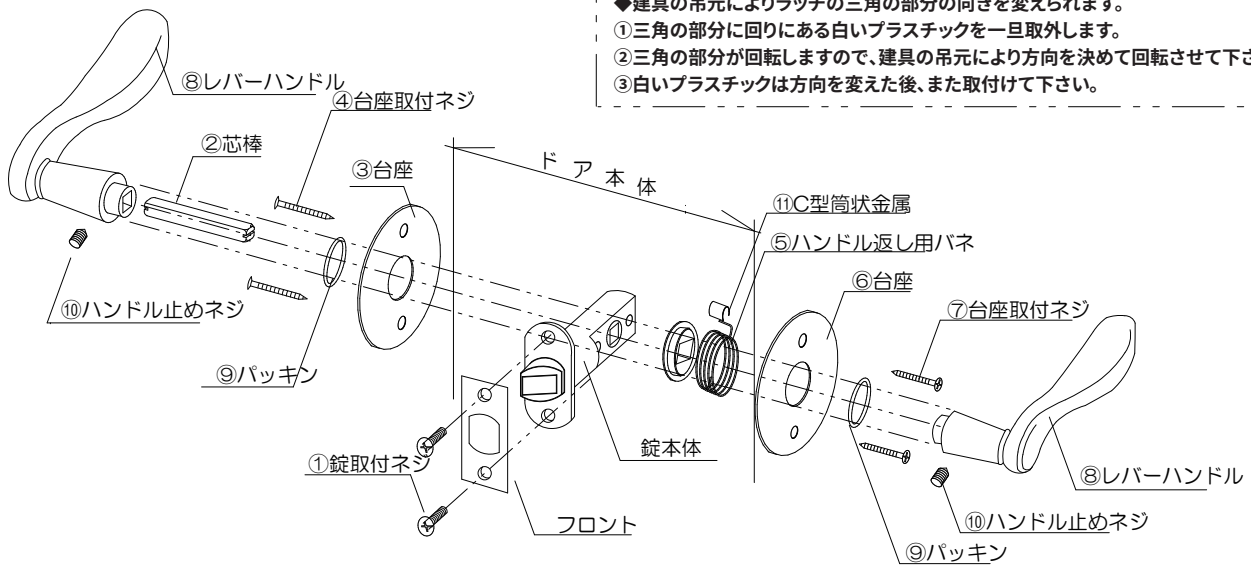
※A 建具を図のように加工します。
※B（C型筒状金属）を小さい穴にはめてから、バネを穴に埋めます。
※バネの回転方向により判断して建具の内側もしくは外側に取付けて下さい。

バネを取付けた様子

⑤ハンドル返し用バネはドア厚34ミリ以上の補助部品です。

<1> チューブラ錠本体にもバネの機能がありますので、レバーハンドルの取扱には返し用バネを取付けなくても、特に支障ありません。

<2> ドア厚が厚いと芯棒も長くなりチューブラ錠バネに負担がかかるため、補助部品として返し用バネを取付けることをお勧めしております。

<3> ドア厚33ミリ以下のドアでは、返し用バネがドアの内側に納まりませんので、取付けられません。

◆建具の吊元によりラッチの三角の部分の向きを変えられます。
①三角の部分に回りにある白いプラスチックを一旦取外します。
②三角の部分が回転しますので、建具の吊元により方向を決めて回転させて下さい。
③白いプラスチックは方向を変えた後、また取付けて下さい。